

(別添2)

No.	7
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆産地生産性向上計画 仙北郡美郷町産地 (作成主体:美郷町地域農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

仙北郡美郷町は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約7割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。

また、湧水が多い地域であり、場所によっては水田の排水性が十分でなく、豪雨災害発生後の湿害がにより単収の低下がみられることがあるため、湿害対策を十分に実施することにより、単収の安定を実現する。

現在、仙北郡美郷町においては、水田収益力強化ビジョンにおいて大豆団地加算(6ha)及び大豆団地加算(3ha)その他施策により、大豆の団地化及び高収益作物の作付の推進により水田収益力強化の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

大豆については、全量リュウホウであり年間約900tを出荷している、全国の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、長雨による湿害等により、安定供給が達成できておらず、県全体の方針と連携を図りつつ、栽培技術向上を図ることによる作柄の安定化が必要。

(2) 生産における現状と課題

近年、大豆については作付面積は年により550haから600haの範囲で変動しており、単収はその年の気候に左右され不安定である。

特に2年産については、大豆の開花期の盛期に大雨があり、影響を多大に受け、単収は過去7年間で最も低い138kg/10となった。平成26年から令和2年産の単収の最低値と最高値を除いた(7中5)平均188kg/10と比較して、50kg/10aの著しい減収が生じている。

更に収量を向上させるためには、作付頻度の増加による地力低下等を改善し、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、長雨発生時の排水不良による作柄不良も発生しており、暗渠の施工による改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こっている。そのため、スマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要であり、特に、団地化率の向上を加速するための改善が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計										

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産(現状)	令和2年産(現状)
大豆	リュウホウ	(583) 583	(591) 591	(553) 553	(183) 183	(209) 209	(138) 138	(1,067) 1,067	(1,235) 1,235	(763) 763
作物計		(583) 583	(591) 591	(553) 553	(183) 183	(209) 209	(138) 138	(1,067) 1,067	(1,235) 1,235	(763) 763

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計								

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	リュウホウ	197	33.8%	219	37.0%	237	42.9%	
作物計		197	33.8%	219	37.0%	237	42.9%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

秋田県の基準と同様に、4ha以上の、同一作物が作付けされており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地を「団地」として、団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。